

地域と連携した実践的ビジネス体験学習

― 千葉県立東金商業高等学校における「キャリア教育」 ―

千葉県立銚子商業高等学校教諭（前千葉県立東金商業高等学校） 石毛 宏幸

1. はじめに

現在、我が国では経済低迷の長期化や雇用状況の悪化など、激しい社会情勢の変化が進んでいる。1990年代以降のバブル崩壊やリーマンショックなどの経済環境の悪化や経済のグローバル化による産業及び雇用の構造的変化等の外的な要因も起因している。このような社会情勢の中であるからこそ、学校教育において、将来の職業や生き方についての自覚を促すとともに、社会的・職業的自立に向けて必要となる資質・能力を育成する「キャリア教育」の推進が求められている。

これらのことを踏まえ、千葉県立東金商業高等学校では平成20年度から平成22年度まで3か年にわたり、文部科学省の「研究開発学校」として「商業の専門高校におけるキャリア教育の在り方について、特に地域社会と連携したキャリア教育を踏まえた、学校目標達成のための教育課程、指導方法、評価方法についての研究開発」に取り組んだ。

2. 学校の概要

千葉県立東金商業高等学校は、家庭や地域社会との連携による教育力の向上に努め、広く産業界や地域社会から望まれる「徳・智・体」の資質を兼ね備え、個性が輝き調和がとれた人材の育成を目指した「至誠・叡智・剛健」を校訓とする商業の専門高校である。生徒のキャリア発達を積極的に支援し、実社会で必要となる「社会人基礎力」を育成するために、地域社会と連携した実践的なビジネス体験学習を中心としたキャリア教育を展開している。

3. 文部科学省「研究開発学校」の研究概要

商業の専門高校におけるキャリア教育の在り方について、学校設定教科「キャリア」を新設して、「地域活性化プロジェクト」「介護実習」や「インターンシップ」などの体験学習を柱にした教育課程

を展開する。また、商業教育における徳育の重要性を理解させながら、商業の専門教育とキャリア教育とを関連づけ、高校3年間をとおしてのキャリア教育の在り方、指導方法及び評価方法を研究する。

学校設定新教科「キャリア」目標

家庭・地域社会・企業等との連携によるキャリア教育をとおして、将来の職業や生き方についての自覚を促すとともに、「人間関係形成能力」「将来設計能力」「情報活用能力」「意思決定能力」を身に付け、人間力を醸成し、社会的・職業的自立に向けて必要な「社会人基礎力」を育成する。

〔学年別キャリア発達能力重点指導項目〕

第3学年	意思決定能力・情報活用能力	高度資格取得
第2学年	将来設計能力	プログラム開発
第1学年	人間関係形成能力	地域活性化
アウトレットモール・介護実習・異文化理解 職場インターンシップ 上級学校インターンシップ		新商品開発 介護福祉研究

4. 実践的キャリア教育の展開

（1）東商アウトレットモール

地元企業17社と東金商工会議所・千葉県農業大学校・山武起業家連絡会と連携して、文化祭時にアウトレットモールを開催した。このプロジェクトは、キャリア教育の一環として、第1学年生徒全員に、地域企業から商品を仕入れ販売する店舗経営の企画・運営を行わせた。生徒たちは実際のビジネスを体験し、人間関係形成能力・意思決定能力や職業観・勤労観を養うとともに、販売促進活動や接客について学び、商業活動についての知識を身に付けた。



(2) 介護実習

第1学年生徒全員を対象に、通学圏内の42か所の介護福祉施設において介護実習を実施した。

この事業は、高齢者や障害のある方への介護やふれあいとおして、思いやる心を養い、少子高齢社会に向けて、福祉の大切さを理解するとともに、命を大切にする心を身に付け、これからの社会を支え貢献できる心豊かな人材となる資質を身につけることを目的としている。実習当日、生徒は常に優しいまなざしで、意欲的に実習に取り組んだ。



また事前指導として、地元の介護福祉用品会社の協力で、介護福祉講演会や介護実技講習会を実施し、介護福祉の現状や介護技術・高齢者への接し方などについて学んだ。



(3) ホスピタリティ講習会

第1学年を対象に、日本ケアフィットサービス協会から講師を招いて、おもてなしの心である「ホスピタリティ・マインド」を学び、他を思いやる心を養い、高齢社会に向けて福祉の大切さを理解させ、命を大切にする心と社会を支え貢献できる心豊かな人材の育成を目的とした講習会を実施した。

(4) 異文化理解学習

第1学年を対象に、アジア経済研究所からタイ・ラオス・フィリピン・ミャンマー・ウズベキスタンの研修生を招いて、「異文化理解と外国人とのコミュニケーション」について講演会を開催した。講演会終了後は、クラスごとに研修生との交流会を開催した。

(5) 上級学校インターンシップ

第2学年学校設定教科「キャリア」において、将来設計能力・情報活用能力を身に付けるため、希望する大学・短大・専門学校において実際に授業を体験し、「自己の適性」「進路選択」について情報を収集した。就職希望者は、希望する職種・業種に関

連する上級学校の授業を体験し、職業に関する情報を収集し、将来設計に役立てた。また、夏季休業中に、第2学年生徒全員が各自で上級学校のオープンキャンパスに参加した。進学希望者は、希望する学校・学部・専攻の上級学校インターンシップに参加し、進路を選択する上で必要な情報を収集した。



(6) 職場インターンシップ

12月の期末考査終了後3日間、第2学年生徒全員を対象に、職業現場におけるインターンシップを実施した。実習企業・団体は通学圏内の71社に協力していただき、インターンシップを体験した。終了後は、報告書をまとめ、自らのキャリア形成について考えさせた。

このインターンシップを行うことにより、職業観、勤労観や倫理観などを育成するとともに、自己の適性と希望する職種・業種との関連について考えさせた。また、職業に関する知識や内容を、社会における実際の活動をととして理解させ、企業の社会的責任の重要性や商業倫理及び法令遵守の大切さを理解させた。



(7) サービス介助士講座

第3学年学校設定教科「キャリア」において、日本ケアフィットサービス協会認定の「サービス介助士3級」の資格取得講座を実施した。現在、サービス産業界において注目されている「サービス介助士」の資格を取得することにより、「ホスピタリティ・マインド」を学び、将来の職業に活かすとともに、思いやりのある暮らしやすい社会を築く人材を育成することを目的としている。



(8) 東商朝市

地域活性化プロジェクトとして、地元の千葉県農業大学校・起業家連絡会・東金商工会議所・東金駅西口商店街と連携して、「東商朝市」を毎月1回開催した。多くの買い物客を商店街に呼び込み、職業観・勤労観を育成するとともに、地域活性化に貢献でき、東金駅西口商店街連合協同組合および東金商工会議所から感謝状・地域貢献賞をいただいた。



(9) 新商品開発プロジェクト

① 平成 21 年度の取り組み

キャリア教育の一環として地元の名産品・特産品を使用した新商品の開発を実施した。地域企業と連携し、企画・試作品の作成・試食会などを実施し、新商品を完成させ、実際に店頭販売した。このプロジェクトは、地域企業におけるビジネスを体験・理解することにより、将来の地域社会を担う人材の育成を図るとともに、商業高校が地域活性化の役割を果たすことを目的としている。

新商品開発の第1弾として、地元の千葉県農業大学校のブルーベリーを使用した商品開発に取り組み、「洋菓子の不二家」店と共同で、ブルーベリープリンを開発・販売し、店頭において約1,100個を販売した。また、地元菓子店で「ブルーベリー生大福」「ブルーベリー生どら焼き」を開発・販売し、約2,500個を販売した。



第2弾としては、地元の有名老舗味噌店の金山寺味噌を使用した商品開発に取り組み、地元の和菓子店と共同で「みそ鬼まんじゅう」「みそサブレ」を完成させ、それぞれ店頭において販売した。



第3弾の新開発商品

としては、バレンタイン用のケーキを「洋菓子の不二家」店と共同開発し、販売した。



② 平成 22 年度の取り組み

新商品開発第1弾として、「桜まつり」で有名な、地元の観光名所である「八鶴湖（はっかくこ）」にちなんだ商品開発に取り組んだ。「はっかくこ」という呼び名に注目し、語呂合わせとして「ハッカ」と「クコの実」を入れたゼリーを、地元老舗和菓子店と開発した。爽やかなハッカ味のゼリーの中には、桜の名所らしい「桜の花びら」を入れ、ゼリーの色彩も、湖をイメージした薄い水色とした。パッケージも、桜の花が描かれた和紙を使用した。現在も地元「湖月堂」店において好評発売中である。



第2弾として、地元九十九里海岸の海水から製塩した「九十九里の塩」を使用した「塩アイス」を、地元のアイス工房と共同で完成させた。また、地元の酒蔵である「梅一輪」酒造の銘酒「大吟醸」を使用した「大吟醸アイス」も完成させ、地元のスーパーやコンビニで好評販売中である。



第3弾としては、山崎製パン千葉工場と地元の食品工業会社と共同で、千葉県産ピーナッツ使用の「ランチパック（ピーナッツカレー）」を開発し、千葉国体の開催期間の9月・10月限定で県内および関東近県で販売した。

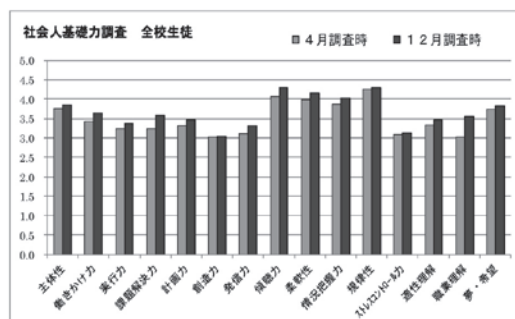
森田健作知事の記者発表や新聞・千葉テレビ・Bay-FMなどの多くのマスコミで取り上げられ、2ヶ月間で15万個を売り上げた。販売好評につき発売期間が延長され、現在も販売中である。



森田健作千葉県知事 記者発表

5. 「実践的キャリア教育」の成果について

キャリア教育による成果を検証するため、4月と12月の2回に分けて「社会人基礎力に関する意識調査」を全校生徒対象に実施した。その結果、全ての項目において、4月実施時と比較して12月実施時の数値が向上していた。本校が展開している地域と連携したキャリア教育の取り組みが、生徒のキャリア発達能力を支援し、「社会人基礎力」を醸成することができたことがわかる。



特に第3学年生徒は、本校に入学してから様々なキャリア教育活動を体験・学習しており、この期間の教育効果を確認するために「社会人基礎力」に関する調査を本校・進学重点校・普通高校の3校の第3学年生徒を対象に実施した。その結果本校は、調査した進学重点校・普通高校に比べ、「社会人基礎力」について高い意識と自覚を持っていることがわかった。特に、「主体性」「働きかけ力」「実行力」の「前に踏み出す力」と、「発信力」「傾聴力」「柔軟性」「状況把握力」「規律性」などの「チームで働く力」が優れていた。また、「自己の適性理解」「職業理解」についても高い数値となっており、本校のキャリア教育活動の成果が出ていることがわかる。

また、これらのキャリア教育活動の成果が認められ、各種団体から多くの賞を受賞した。

- 千葉県教育委員会
 - ・魅力ある高等学校づくりチャレンジ大賞 教育長賞（最優秀賞） 受賞
 - ・教育奨励賞・教育功労者賞 受賞
- 東金市・商工会議所・商店会
 - ・東金市政功労者賞 団体賞 受賞
 - ・地域貢献賞 受賞

6. おわりに

近年の社会情勢の変化により、人件費削減や経営の合理化など雇用調整が進められているうえ、フリーター・ニートの増加、就職後の早期離職など、職業観・勤労観の未成熟や社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質・能力の欠如などにより、定職に就いていない若者の増加などの課題が指摘されている。この社会的な大きな課題を解決するためには、国としての具体的かつ効果的な経済対策が必至であるが、教育現場においても学校教育と地域社会が連携して、明日の社会を担う若者のキャリア発達を支援し、社会人・職業人として自立できる力を育成していくことが重要である。

新学習指導要領には、教科商業の「各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い」に、

地域や産業界との連携・交流を通じた実践的な学習活動や就労体験を積極的に取り入れるとともに、社会人講師を積極的に活用するなどの工夫に努めること。

と明記されている。商業教育の目標および商業の各科目目標に示されている「育成したい能力・態度」は、まさにキャリア教育が目指す能力と一致しており、普通高校と比較して商業高校が職業観・勤労観を育成し、社会人・職業人として自立する能力を身に付けさせる「キャリア教育」では優位に立っているといえる。

地域社会と連携した実践的なビジネス体験学習を展開し、学校で学習したことを実社会で活用させる能力を身に付けさせ、広く産業界や地域社会から望まれる人材を育成することが商業教育に求められている。商業高校が、地域活性化の中心機関として機能するような教育活動を展開することは、実践的な学習活動の機会となるとともに、地域社会に貢献することにもつながる。

これからの商業教育は、専門的な知識・技能を習得させ、資格を取得するだけでなく、「キャリア教育」の視点に立って、習得した専門的な知識・技能を実社会でどのように活用させるのかを理解させることが必要である。そのためには、地域社会と連携した体験的な学習活動をととして、実践的な能力を身につけていく教育活動を展開することが重要である。